

2011年11月14日

要望書

陸前高田市

市長 戸羽 太 様

貴市におかれましては、東日本大震災に対する支援および復興に全力を挙げておられますことに敬意を表します。また、平素は、弊会による東日本大震災で被災した子どもたちへの支援活動に対し、市長をはじめとする陸前高田市役所職員そして市民の皆さまの多大なご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

セーブ・ザ・チルドレンは、1919年に創設された、世界で最も長い歴史のある子ども支援の国際NGOです。セーブ・ザ・チルドレンが、90年以上にわたる国際的な緊急支援活動から学んだことは、子どもたちが必要とする緊急支援・復興活動支援を行うには、子どもたちの声に耳を傾け、彼らが何をほんとうに望んでいるのかをきちんと理解し、その声を具体的に復興計画の策定・実施過程に反映させることが必要であるということです。

現在、陸前高田市で復興計画が策定されておりますが、セーブ・ザ・チルドレンは、この復興計画の策定と実施の過程へ子ども自身が参加できる制度をぜひ作っていただきたいと考えております。具体的には、以下の点をご要望申し上げます。

復興計画策定・実施・評価・モニタリングというプロジェクトサイクルのすべてのプロセスに子ども達の声を反映させることができる、子ども参加の制度を創設すること

セーブ・ザ・チルドレンは、東日本大震災で被災した子どもや家族の日常性の回復を目指し、教育や子どもの保護分野において多様な支援を実施すると同時に、地域の復興に向けて、ふるさとの未来を担う子どもたち自身が声をあげ、参加することで、より良いまちづくりを目指そうと“Speaking Out From Tohoku～子どもの参加でより良いまちに！～”を実施しています。

5月24日～6月4日にかけて実施した「子ども参加に関する意識調査」にて、有効回答11,008人(89校)のうち、約9割の子どもたちが「自分のまちのために、何かしたい」と回答しました。この結果を受け、6月25日から、子どもたちが、自分たちのまちをより良いまちにするために、子どもたち同士、地域・行政の方々と話し合い、まちづくり・建築といった専門家もまじえ、復興に向けたまちづくりを考える「子どもまちづくりクラブ」の活動を開始しています。

現在、「子どもまちづくりクラブ」のメンバーは、“生きるための町ではなく豊かに暮らせる町”というコンセプトを掲げ、地域の復興にむけたまちづくりを考えています。また、県・市町村の復興計画に関しても、素案を読み、住民説明会に参加しながら、地域の

復興にむけてどのような計画であるべきなのかを考えています。

日本政府が昨年発表した「子ども・若者ビジョン」の中でも、子ども・若者を社会を構成する重要な「主体」として尊重し、大人と共に生きるパートナーと位置づけ、意見表明機会の確保をはじめ社会参加を支援すると明示されています。

また昨年発表された国連子どもの権利委員会第三回日本政府報告書総括所見においても、「政策策定プロセスにおいて、子どもおよび子どもの意見に言及されることがめったにないことを懸念。あらゆる場面において、自己に影響を及ぼすあらゆる事柄に関して、全面的に意見を表明する子どもの権利を促進するための措置を強化するよう勧告（一般原則項目パラ 43、44 子ども意見の尊重）」がなされています。

セーブ・ザ・チルドレンは、市の未来を担う子どもたち自身が、復興計画や地域の復興に向けたまちづくりに、子どもたち自身が声をあげ、参加することが、持続的な復興へとつながっていくと考えております。セーブ・ザ・チルドレンでは、行政や、地域、保護者等と連携しながら、子どもたちと共に、地域の復興にむけて取り組んでいきたいと考えております。

今後ともご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本件に関するご照会は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（津田知子/東日本大震災復興支援事業部プログラムマネージャー）までお願い致します。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 仙台事務所

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 1-3-7-2F

Tel: 022-263-4561、090-9140-5637 E-mail : tsuda@savechildren.or.jp